実践報告

新型コロナウィルス感染症（COVID-19）感染拡大における学生の健康及び生活に関する調査報告
A survey report on student health and life in the spread of new coronavirus infection (COVID-19)

山根　真紀　　大宮　ともこ　　石井　智也　　住田　健
Maki YAMANE, Tomoko OMIYA, Tomoya ISHII, Ken SUMIDA

日本福祉大学　スポーツ科学部
Faculty of Sport Sciences, Nihon Fukushi University

1. 調査実施の背景

新型コロナウィルス感染症（COVID-19）の感染拡大による社会情勢の変化のなかで，本学学生の多くが大きな不安・心配を抱えていることが考えられる．たとえば，本学学生自治体が実施した「新型コロナウィルス（COVID-19）に対する学生の不安・要望調査」によれば，遠隔講義に関する不安のみならず，少なくない学生が「実習・インターンシップ」「学内生活」「学外生活」などの健康・生活面において大きな不安を抱えていることが明らかにされている（日本福祉大学美浜キャンパス学生自治会，2020）．

本学では遠隔講義・授業の体制整備が進められているが，新型コロナウィルス感染症感染拡大による多様な不安・心配が渦巻くなかで，学生の学習到達を促し，様々な教育保障を行うためには，学生が抱える健康・生活面の不安やニーズを十分に把握することが不可欠である．

そこで本研究では，スポーツ科学部学生の健康・大学生活・日常生活（経済面）における不安やニーズを把握して，学生の健康や生活面に応じた教育支援体制構築の一助にすることを目的とする．新型コロナウイルス感染症が拡大する中，自身の健康や大学生活等に不安・心配を抱えている学生一人一人への対応が不可欠であり，本調査の結果を踏まえて，学生への個別的なアプローチについても適切に行うことが可能となる．

なお本調査では，藤本淳也・KCAA ほか（2020）『大学生への新型コロナウイルス感染症拡大の影響報告書（完成版）』，北海道教育大学釧路校学生生活サポート室（2020）『学生の健康及び生活に関するアンケート調査―新型コロナウイルス感染症の拡がりを受けて』，日本福祉大学美浜キャンパス学生自治会（2020）『新型コロナウィルス（COVID-19）に対する不安・要望調査』などを基に作成した．

2. 方法

2.1. 調査対象

日本福祉大学スポーツ科学部所属の 1 ～ 4 年生を対象とした．

2.2. 調査方法と調査時期

google フォームを用いた WEB アンケート調査を実施した．調査は，nfu.jp の掲示板で対象学生に配信するとともに，導入ゼミ（1 年），スポーツフィールドワーク（2 年），専門演習 1（3 年），専門演習Ⅱ（4 年）の各ゼミ担当教員に，学生の回答を促す連絡をしていただくよう依頼した．

調査期間は 2020 年 5 月 11 日（月）～ 5 月 22

日（金）とした.

2.3. 調査項目と分析方法

調査は以下の 7 項目とした.

1)「健康」に関する不安や心配について

2)「講義・授業」に関する不安や心配について

3)「大学生活」に関する不安や心配について

4)「日常生活」に関する不安や心配について

5)「経済」的な不安の程度について

「経済」に関して不安や心配が「とてもある」または「ややある」と回答した学生を経済高不安群,「どちらともいえない」「あまりない」「全くない」を経済低不安群とした.

6) アルバイトの状況

7) 大学や学部への要望

単純集計では，各項目を度数および％で示した. また，1）～ 6）については χ^2 検定を用いて学年間の比較を，その後の検定として残差分析を行い，どの学年に特徴があるのかを検討した．分析には統計パッケージ SPSS Ver.21 を用い，$p<0.05$ を有意とした.

2.4. 調査回答

調査回答者は 512 名（有効回答率 69.7％）で，

表 1　調査対象者

	総数	回答数	回答率
1年	182	168	92.3%
2年	194	126	64.9%
3年	176	122	69.3%
4年	183	96	52.5%
合計	735	512	69.7%

詳細については表 1 に示した.

2.5. 用語について

インターネット回線を通して行う授業は，オンライン授業，遠隔授業，リモート授業，WEB 授業，オンデマンド授業など様々な名称が存在するが，この報告書ではすべて遠隔授業とした.

3. 結果

3.1. 単純集計の結果概要

「健康」に関して不安や心配がある学生は全体の 3％（17 名）と少なかったが（図 1・2),「気持ちが不安定」といった精神的な症状を示す学生が 4 名みられた.

「講義・授業」に関して不安や心配があると回答した学生は全体の 43.9％を占め，心配が「ある」と回答した学生では,「遠隔授業で十分に学習できるのか（実技などの授業も含めて）不安」（77.8％）が最も多かった（図 3・4).

「大学生活」に関して不安や心配があると回答した学生は全体の 1/3（35.9％）で，心配が「ある」と回答した学生では,「就職活動や教員採用試験に関して不安」（58.7％）が最も多かった（図 5・6).「日常生活」に関して不安や心配があると回答した学生は 28.3％で，心配が「ある」と回答した学生では,「感染拡大がいつ終わるか分からず，先が見えないことが不安」（65.5％）が最も多かった（図 7・8).

「経済」に関して不安や心配が「とてもある」または「ややある」と回答した経済高不安群は 40.6％で,「どちらともいえない」「あまりない」「全くない」の経済低不安群は 59.4％であった（図 9).

アルバイトをしている学生 406 名の内,「実際に減った」「実際に解雇された」学生は合わせて 76.8% と 8 割に及んだ（図 10・11).

コロナウィルスによる感染拡大の影響を受け，大学や学部に要望が「ある」と回答した 377 名（73.6％）では,「経済的援助を充実させてほしい」が 62.3%,「部活動・サークル活動がどうなっていくのか等の見通しを示してほしい」が 51.7% であり，5 割を超えた（図 12・13).

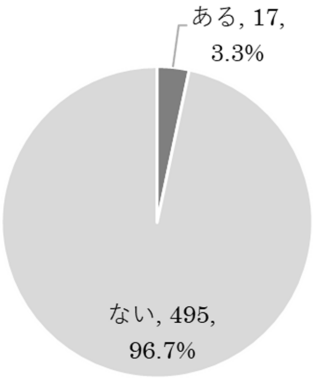


図 1　あなた自身の健康に関して不安や心配がありますか？（n ＝ 512）

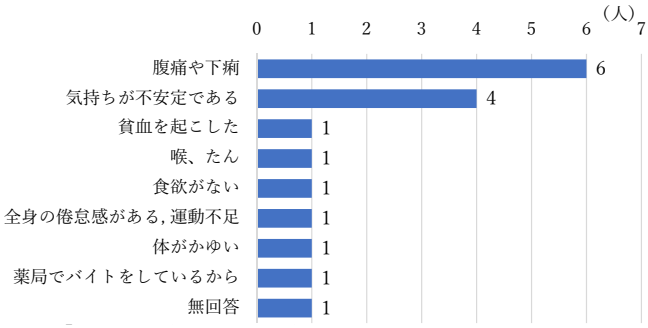


図 2　「ある」と回答された方：健康に関してどのようなことが心配ですか？（n ＝ 17）

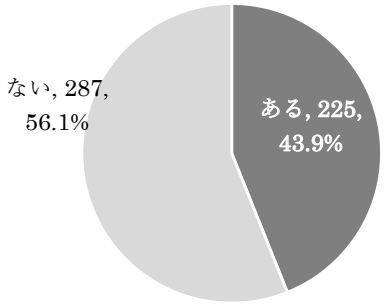


図 3　「講義・授業」に対する不安や心配がありますか？（n ＝ 512）

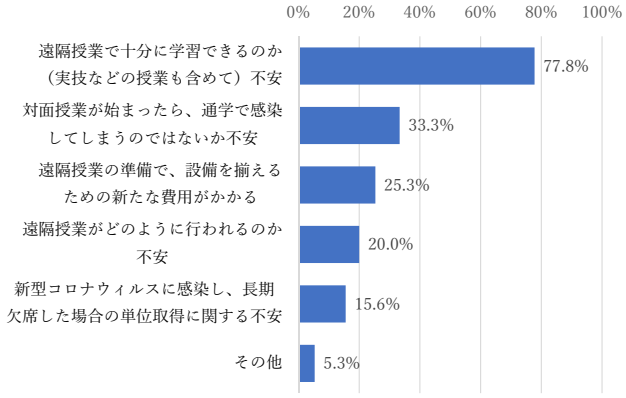


図 4　「ある」と回答された方：「講義・授業」に関してどのようなことが心配ですか？（複数回答項目）（n ＝ 225）

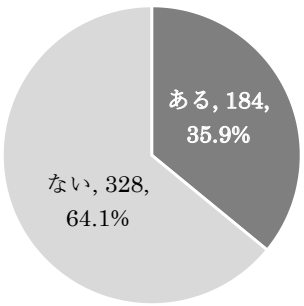


図 5　「大学生活」で不安や心配がありますか？（n ＝ 512）

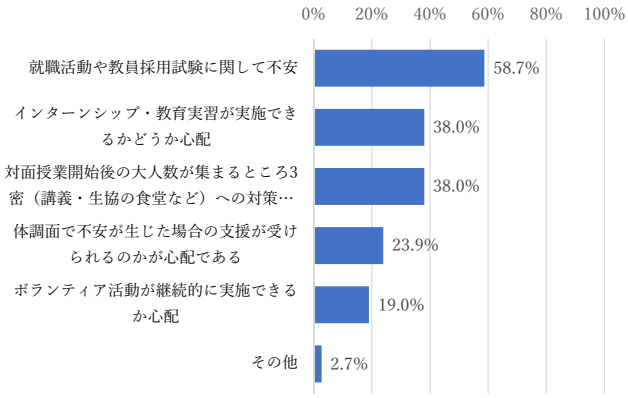


図 6　「ある」と回答された方：「大学生活」に関してどのようなことが心配ですか？（複数回答項目）（n ＝ 184）

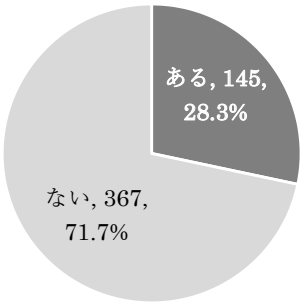


図７　「日常生活」で不安や心配がありますか？（n ＝ 512）

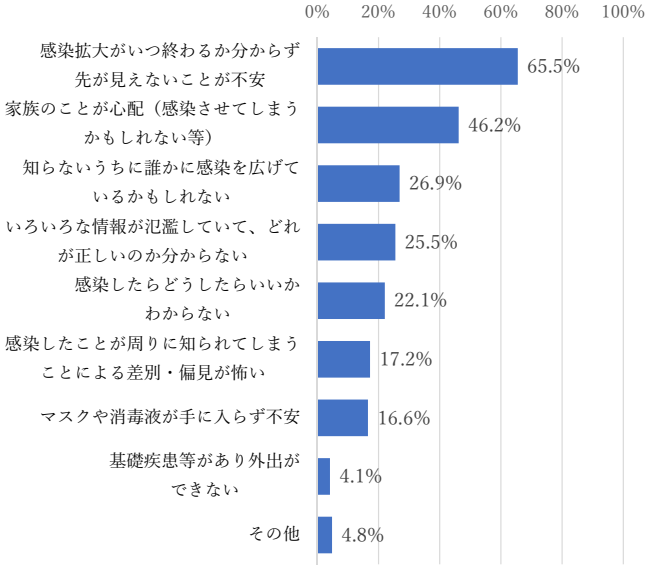


図８　「ある」と回答された方：「日常生活」に関してどのようなことが心配ですか？（複数回答項目）（n ＝ 145）

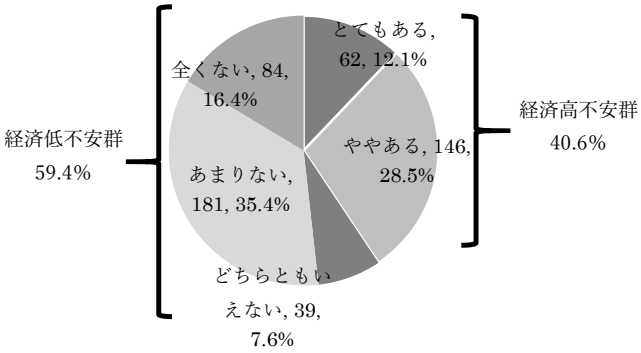


図９　現在から６月にかけて、生活が困難、授業料が払えないなどの経済的な不安はどの程度ありますか？（n ＝ 512）

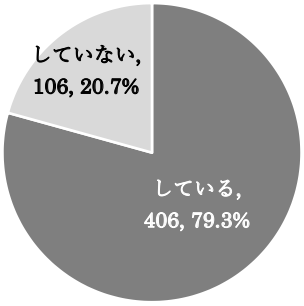


図 10　現在、アルバイトをしていますか？（n ＝ 512）

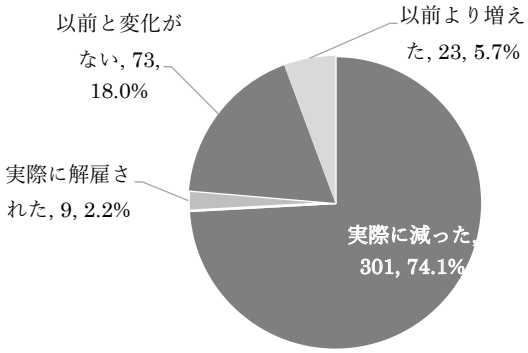


図 11　コロナウイルス感染拡大の影響で、アルバイトの機会が減ったり、解雇されたりしたことがありますか？（n ＝ 406）

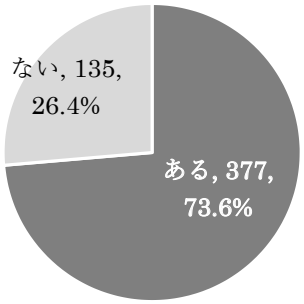


図 12　コロナウイルスによる感染拡大の影響を受け、大学や学部に要望はありますか？（n ＝ 512）

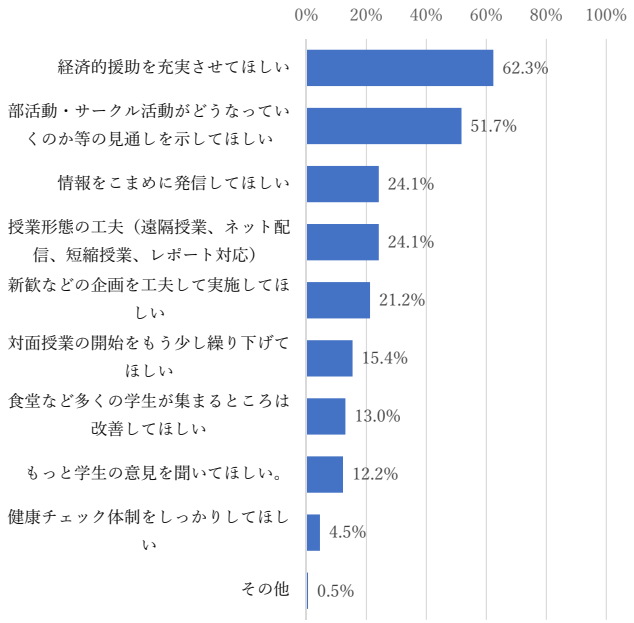


図 13　新型コロナウイルスによる感染拡大の影響を受け、大学や学部にどのような要望がありますか？（複数回答項目）（n ＝ 377）

3.2. 学生の不安や心配について（学年比較）

まず，コロナウィルスによる感染拡大の影響を受け，学生が経験した，「健康」「講義・授業」「大学生活」「日常生活」および「経済」の不安のレベルについて検討した（図 14）．その結果「講義･授業」（43.9%）が最も高く，次いで「経済」（40.6％），「大学生活」（35.9％）と続いた．「健康面」についての不安は最も低かった（3.3％）．

次いで，それぞれの不安について学年ごとで比較した．その結果，学年間で有意な差が認められたのは「講義・授業」（$\chi^2 = 25.565$,df=3，$p<0.01$），「大学生活」（$\chi^2 = 22.742$,df=3，$p<0.01$），「経済」（$\chi^2 = 14.208$,df=3，$p<0.01$）であった．

「講義・授業」（図 15・16）では，4 年生が他の学年に比べ，不安が低く（$p<0.01$），2 年生と 3 年生の不安が高かった（$p<0.05$）．具体的な不安要素を見ると，「対面授業が始まったら，通学で感染してしまうのではないかと不安」において，1 年生が他の学年より有意に低かったが，それ以外の要素に学年差は認められなかった．

「大学生活」（図 17・18）では，1 年生の不安が低く（$p<0.01$），3 年生の不安が高かった（$p<0.01$）．個別の不安要素には学年差が多く認められた．まず，最も不安が高い「就職活動や教員採用試験に関する不安」は学年とともに高くなるが，2 年生で有意に低く 4 年で有意に高かった．「インターンシップ・教育実習が実施できるかどうか不安」も学年とともに高くなっていくが，1・4 年生は有意に低く，3 年生で有意に高かった．一方，コロナ感染対策（3 密への対策）に関する不安は，4 年生に比べ下位学年が高かった．「体調面で不安が生じた場合の支援が受けられるのかが心配」では，学年とともに低下し，1 年生が有意に高く，4 年生が有意に低かった．

「経済面」（図 19・20）では，学年の進行とともに「経済高不安群」の割合が高まる傾向にあり，1 年生は有意に低く（$p<0.01$），4 年生は有意に高かった（$p<0.01$）．また学生のアルバイト状況は，1 年生は他の学年に比べ，アルバイトをしていない学生が有意に高く，2 ～ 4 年生は解雇されたあるいは収入が減少した学生が 1 年生より有意に高かった．学生の経済面に関連しているアルバイト状況について調べてみたところ，アルバイトをしていない学生は 1 年生が 2 ～ 4 年生に比べ有意に高く，解雇されたり，収入が減少した学生は 2 ～ 4 年生が 1 年生より有意に多かった．経済的不安レベルと学生のアルバイト状況の関係は，アルバイトを解雇され，収入が減少した学生において経済高不安群が有意に高かった．学年別では 1 年生と 4 年生で有意差が認められ，1 年生では経済高不安群は経済低不安群に比べ，アルバイトを解雇されたり，収入が減少したりした学生が有意に高く，一方でアルバイトをしていない学生の経済不安は他の学生より有意に低かった．4 年生でも，経済高不安群は経済低不安群に比べ，アルバイトを解雇されたり収入が減少したりした学生が有意に高く，アルバイトの状況に変化がなかったり増えたりした学生の不安は低かった．

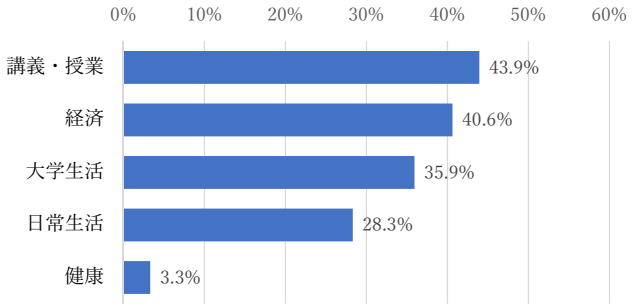


図 14　大学生が感じた各要因の不安レベル（n ＝ 512）

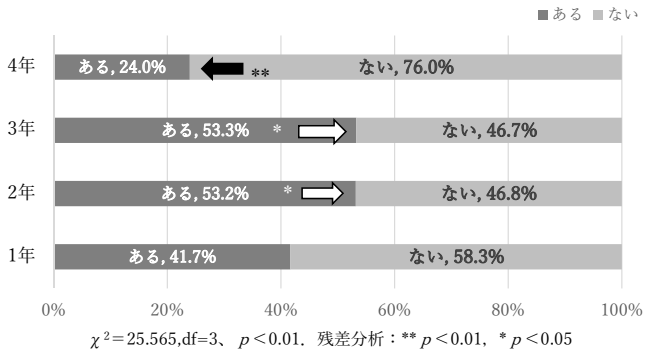


図 15　「講義・授業」に関する不安の有無（学年別）

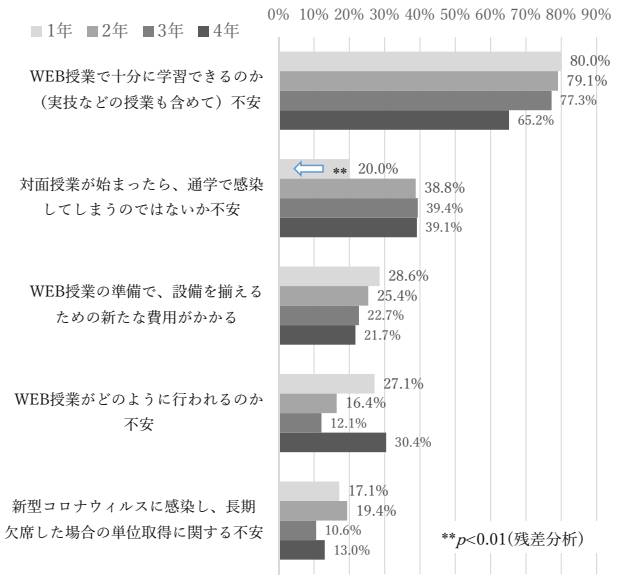


図 16 「講義・授業」に関する不安要素（学年別）（n ＝ 226）

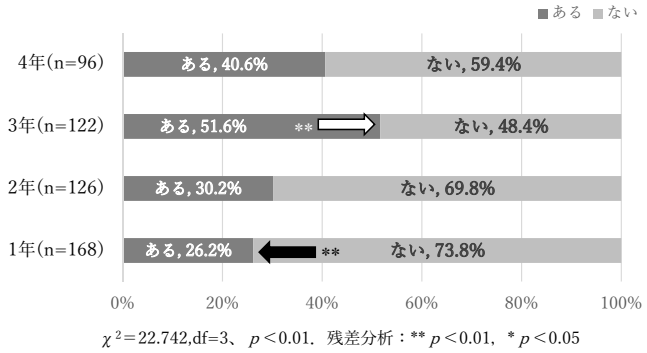


図 17 「大学生活」に関する不安の有無（学年別）

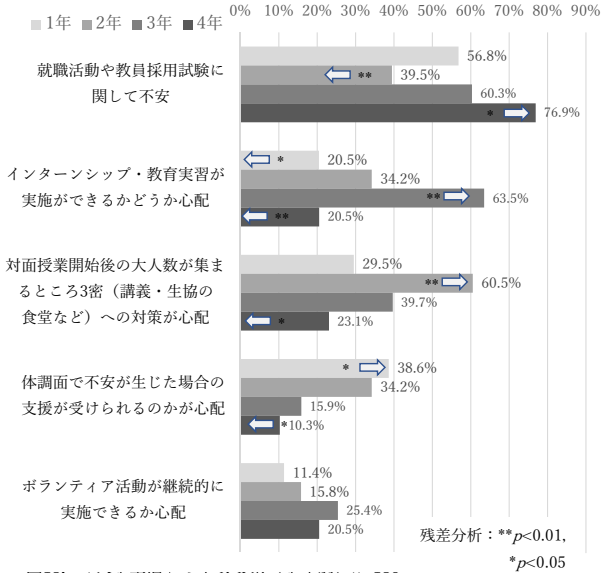


図 18 「大学生活」の不安要素（学年別）（n ＝ 185）

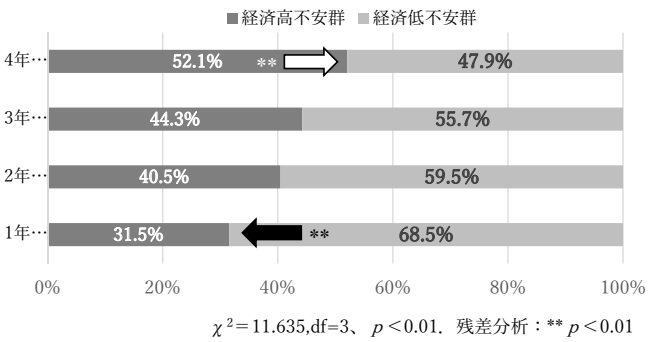
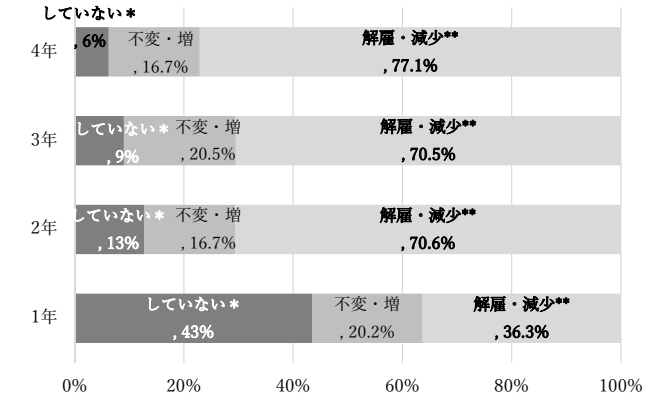
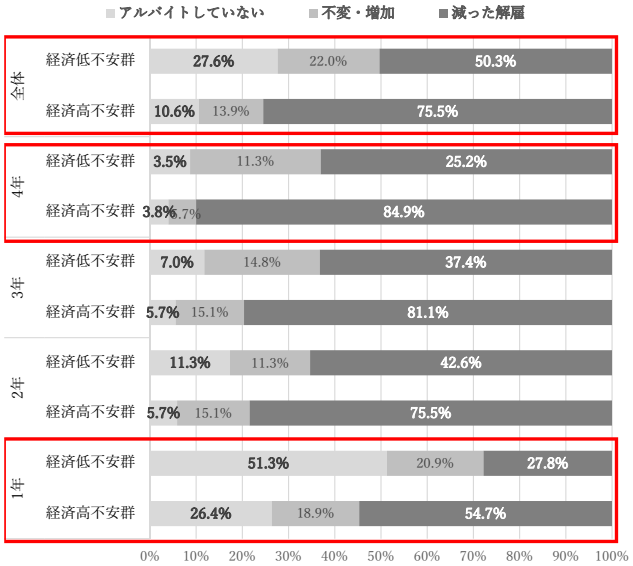


図 19　生活が困難、授業料が払えないなどの経済的不安の有無（学年別）



χ^2=89.287,df=6、p<0.001
残差分析：していない：1年>2～4年，* p<0.05，解雇・減少：2～4年>1年，
** p<0.01

図 20　アルバイトの状況（学年別）



残差分析：**全体**：χ^2=34.573 ,df=2,p<0.001．高不安群：バイトをしていない、不変・増が少なく、減った・解雇が多い．1年：χ^2=12.469 ,df=2,p<0.01．高不安群：バイトをしていないが少なく、減った・解雇が多い．4年：χ^2=10.227 ,df=2,p<0.01．高不安群：バイトが不変・増が少なく、減った・解雇が多い

図21　経済的不安レベルとアルバイト状況（学年別）

4. 考察

本研究は，新型コロナウイルス感染拡大により前期授業の開始が遅れ，再開された直後 2020 年 5 月 11 日からの 2 週間で実施された調査結果をまとめたものである．授業は再開されたものの，すべて ZOOM による遠隔授業となり，学生は慣れない授業形態に不安を感じていたと予想できる．また，アルバイト収入が減少したり，中には解雇されたりと，学生の生活をも脅かされていた．特に新入生は先生も知らない，友人もいないといった孤独な中で大学生活が始まり，不安や心配が高まっていることが容易に想像できる．そこで，そのような状況下におかれた学生の不安や心配を理解し，安心・安全に大学生活を送れるための支援策を検討するために本調査は実施された．

以下では「健康」「授業・講義」「大学生活」「日常生活」「経済」の 5 つの側面から，スポーツ科学部学生全体の不安の実態について，また，学年による不安の特徴について，さらに経済的な不安状況と関連する要因について考察した．

4.1. スポーツ科学部の学生が抱える不安の実態

学生の不安が最も高かったのは「授業・講義」で 4 割を超え，「遠隔授業で十分に学習ができるのか」，「遠隔授業のための準備費用がかかってしまう」，また「実際にどのようにやるのか」といった，新たに取り入れられた授業形態に関する不安が高かった．したがって，遠隔授業実施に当たり，学生への丁寧な説明や準備が整わない学生へのサポートが必要であった．このことについて大学からは，遠隔授業に際し，実施マニュアルの提供，科目担当教員からのお知らせへの投稿（nfu.jp），さらにはゼミ教員からの指導やアドバイスなどが行われた．その後の経過を見ると，大多数の学生は問題なく授業を受講できていると考えられた．一方で，次々と送られるメールやお知らせを正しく認識し，的確に実行できない学生が一定数存在するという問題が明らかになった．今後は，そのような学生に対するサポート体制や内容について検討することが求められる．また，対面授業が始まった際の通学での感染不安も高く，対面授業再開のガイドラインの決定には慎重にならざるを得ない．

10 月現在，対面授業が一部再開されるため，スポーツ科学部では学生に対し感染拡大防止として，①手洗い・消毒の徹底，② 3 密を回避する，③マスク着用，④健康管理票のチェック，⑤更衣室利用の制限，⑥体調管理，⑦対面授業に参加できない場合の注意事項（スポーツ科学部の学生の皆さんへ，2020）を提示した．内容は特別新しいことではないが，基本的な感染対策が取られている．どこまで感染対策を徹底するのかについては議論のあるとこ

ろだが，当面はこの対策を徹底し，経過を観察していくことになる．

次に不安が高かったのは，「今後の生活が困難」，「授業料が払えない」などの「経済」的な不安で，「とてもある」「ややある」の経済高不安群が 4 割を占めた．コロナウィルスによる感染拡大の影響を受け，実際にアルバイトの機会が減ったり，解雇されたりした学生はアルバイト実施学生の 7 割を超えたことからも，経済的な不安はさらに高まるものと推察される．また，大学や学部によせられた要望でも，「経済的援助の充実」が最も高く，さらに，本学学生自治会が実施したアンケート調査でも学費減免や給付型奨学金を望む声が多数あげられていた．そこで本学では「オンライン授業受講のための情報環境整備等支援一律給付」3 万円の支給や「日本福祉大学経済援助給付奨学金」を今年限りの特例として「要件を緩和」と，「採用人数の大幅拡大（20 名／前期のところ 120 名（後期も））」を行い，経済的支援を充実させた．同時期に文部科学省からの「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』（文部科学省，2020）や国からの「特別定額給付金」一律 10 万円の支出も重なり，学生にとって急場をしのぐ形にはなったと思われる．しかし，調査からすでに 4 か月が経過し，経済状況も一定傾向が見られるものの，感染拡大第 2 波の到来による影響や第 3 波への備えを考えるとより持続的な支援が求められる．したがって今後も定期的に学生の経済的不安について調査していくことが必要であろう．

3 番目は「大学生活」に関してで，3 割強の学生が不安を感じていた．最も多かったのは「就職活動や採用試験のこと」「インターンシップや教育実習といった実習に関すること」など就職に関することである．大学への入構禁止が続く中，就活にどのように取り組んだらよいのか，どこで情報を入手するのかといったガイダンスの多くがオンデマンド配信となり，自分のタイミングやスケジュールに合わせて視聴できるメリットがある反面，自分で計画を立てて取り組まなければならないため，自己管理ができない学生には不向きである．したがって，視聴したかどうか，内容を理解できたかどうかなどをチェックする機能を働かせ，学生が落ちこぼれないような支援が必要であろう．また，対面授業開始後の大学のコロナ対策も学生の不安要因であった．対面授業に当たっては感染対策に関する学生への注意喚起とともに大学としての対策も周知すべきであろう．

4 番目は「日常生活」で，全体の 3 割弱の学生が不安を感じていた．不安を感じている学生の 2/3 が「感染拡大がいつ終わるか分からず，先が見えないことに不安」を感じ，また自分自身が家族や友人などに感染を広げてしまうのでは，という心配や不安もあった．多くの学生が新型コロナウイルス感染拡大により，大学での学びや生活ばかりでなく様々なことで精神的ストレスを受け，不安や心配を募らせていることがうかがえる．本学には学生支援センターや学生相談室など学生のためのサポート施設がある．それらを有効利用できるよう学生への情報提供や学部の学生支援チームによるサポートなど組織的な支援体制が求められる．

「健康」に関する不安や心配があると回答した学生は 3.3％と最も少なかったが，「気持ちが不安定である」といった精神的な不安を訴える学生が少なからずいることが明らかとなった．授業や生活のことが原因で精神的不調を訴えていることが十分考えられるため，そのような学生には個別対応が必要と考えられる．

4.2. 学年による不安の特徴

学年間で有意な差が認められたのは「講義・授業」「大学生活」「経済」の不安であった．

「講義・授業」に関する不安では，2.3 年生で高く，4 年生で低いことが特徴である．大学での授業を経験している 2・3 年生では，遠隔授業の実施方法をはじめ評価，レポート提出など，対面での授業との違いに対する不安や心配があると推察される．一方で 4 年生はほとんど授業がないことが，1 年生については，大学の授業経験不足やそもそも大学での学びについての理解が低いことが影響し，低くなっていると考えられる．

「講義・授業」に関する具体的な不安要素について，「通学での感染不安」が 1 年生において有意に

低かったが，それ以外では，学年差は認められなかった．しかし，遠隔授業に関する不安はやはり 1 年生が高いため，今後丁寧な指導が必要であることが推察される．

「大学生活」に関する不安は，全体では 1 ～ 3 年にかけて学年の進行とともに高まり，1 年生が有意に低く 3 年生が有意に高かった．大学生活は在籍年数が長くなるほど人間関係や活動の場が広がり，関りも深くなるため，学校へ行けない今の状況はそういった関係が保ちにくいと予想される．学生同士が繋がれる場や活動できる場を，感染予防対策を徹底しつつ実施していく必要があろう．

「大学生活」に関する具体的な不安には，学年差が顕著に認められた．就職活動や教員採用試験に関する不安では 4 年生が，インターンシップや教育実習に関しては 3 年生が高かった．また，新型コロナウイルスの感染対策やそれらの支援に関しては，1・2 年生が高かった．したがってそれぞれの学年状況を見極めた対応が必要である．

「経済」高不安群は，学年進行に伴い増加する傾向にあった．学費や生活費のため 8 割の学生がアルバイトを行っているが，その中の 7 割以上の学生が新型コロナウイルスの感染拡大によりアルバイトの機会が減ったり，解雇されたりした．そういった学生は経済高不安群の割合が高く，学年が高いほどその傾向が強いことが示された．アルバイトの状況は学生の経済的な不安と直接的に結びつき，アルバイトで得た収入が学生の経済を支える割合が学年が進むにつれ高くなっていることが推察される．

5. まとめ

本研究は，コロナウイルス感染拡大の影響によるスポーツ科学部学生の健康・大学生活・日常生活（経済面）における不安やニーズの実態を把握し，学生の安全・安心を守る教育支援体制構築の一助にすることを目的として実施された．

その結果，遠隔授業の実施に対し，授業の質，通信環境や実施方法に不安が高かった．また新型コロナウイルス感染拡大の影響でアルバイトの機会が減ったり，解雇されたりした学生がアルバイト実施者の 3/4 にのぼった．そういった学生は経済に対し不安感が高い傾向にあり，大学への要望でも「経済的援助の充実」が最も高かった．

さらに，大学生活に関する学生の不安感には学年差が認められ，就職活動に関しては学年が高くなるほど，インターンシップについては 3 年生で高かった．加えて対面授業開始後の新型コロナウイルスへの感染対策への不安は 2 年生が最も高かった．

以上のことから遠隔授業の実施については，学生の不安内容を把握したきめ細かな対応が求められるとともに，学生が大学生活で感じる不安感には学年差があることをふまえて指導していくことも重要である．さらに，経済的に苦しい学生への持続的な支援が必要であり，そのためには今後も定期的に学生の様子を把握するための調査を実施していくことが不可欠である．

引用文献

1) スポーツ科学部の学生の皆さんへ（2020/9/30） 対面授業一部再開後の感染拡大抑止へのご協力のお願い
2) 文部科学省「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』 ～ 学びの継続給付金 ～ https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/mext_00686.html（202010.11 閲覧）
3) 日本福祉大学美浜キャンパス学生自治会 COVID-19 対策局（2020） 自治会アンケート結果、2020 年度第 1 回全学学生委員会資料，p.27-40.
4) 藤本淳也・KCAA ほか（2020）『大学生への新型コロナウイルス感染症拡大の影響 報告書（完成版）』
5) 北海道教育大学釧路校学生生活サポート室（2020）『学生の健康及び生活に関するアンケート調査―新型コロナウイルス感染症の拡がりを受けて』
6) 日本福祉大学美浜キャンパス学生自治会（2020）『新型コロナウィルス（COVID-19）に対する要請書』. 2020 年度第 2 回全学学生委員会資料，p.33-44.